3　社会

(1) 正答表

1

問題番号		正答	配点	通し番号	正答率(%)	採点基準
問1	(1)	A：ウ B：ア C：イ	2	①	72.7	完全解答
	(2)	アジア	2	②	74.8	
問2	(1)	文字	2	③	88.1	漢字指定
	(2)	語句：応仁の乱 記号：ウ	3	④	28.6	完全解答
	(3)	古い → 新しい イ　ア　ウ	2	⑤	40.3	完全解答
問3	(1)	記号：イ 国の名：ドイツ	2	⑥	48.5	完全解答
	(2)	（正答例） 貧富の差（格差）が拡大した。	3	⑦	28.8	「経済的な差（格差）が広がった。」も可。内容や表現が不十分な場合は，1点とする。
問4	(1)	①：ア ②：城下	2	⑧	57.3	完全解答
	(2)	①：イ ②：ア ③：イ	2	⑨	78.2	完全解答
	(3)	Ⅰ群：イ Ⅱ群：キ	3	⑩	73.9	完全解答
問5	(1)	サンフランシスコ	2	⑪	65.4	
	(2)	イ　ウ	2	⑫	41.5	完全解答　順不同
問6	(1)	組合	2	⑬	70.2	漢字指定
	(2)	ウ	2	⑭	90.9	
問7		①：ア ②：イ 語句：均衡	3	⑮	70.9	完全解答

2

問題番号	正答	配点	通し番号	正答率(%)	採点基準
問1	(1)：ア (2)：イ	3	⑯	14.5	完全解答
問2	（正答例） 住民による自治が行われていた。	3	⑰	32.8	
問3	(1)：イ (2)：ア 内容：交換する比率	4	⑱	14.2	(1)1点，(2)1点，内容は2点とする。
問4	a：ロシア b：アメリカ 記号：ア	4	⑲	57.9	a，b両方正解の場合に限り，中間点2点とする。
問5	(1)：ア (2)：ウ	3	⑳	48.7	完全解答
問6	（正答例） 高い小作料に苦しむ小作農が，1920年代には社会運動が活性化したこと，1930年代には昭和（世界）恐慌の影響でさらに生活が困窮したことにより，小作争議を増加させた。	5	㉑	5.3	①高い小作料に苦しむなど小作農の生活の困窮についての記述〈1点〉 ②1920年代に社会運動が活性化したことについての記述〈2点〉 ③1930年代に恐慌の影響を受けて生活の困窮が深刻化したことについての記述〈2点〉

3

問題番号		正答	配点	通し番号	正答率(%)	採点基準
A	問1	カードA：ア カードB：ウ カードC：エ カードD：イ	3	㉒	51.2	完全解答
	問2	語句：輸出 記号：ア	4	㉓	47.3	語句のみ正解の場合に限り，中間点2点とする。
	問3	エ	4	㉔	48.9	
B	問1	い：a え：c	3	㉕	63.2	完全解答
	問2 (1)	A：（正答例）仕事を求めて地方から都市部	5	㉖	18.7	A：目的についての記述〈1点〉 どこからどこへ移動したのかについての記述〈1点〉
		B：（正答例）0歳～14歳の割合が高い				B：14歳以下の割合が高いことについての記述〈1点〉
		C：（正答例）高齢者の割合が高くなったこと				C：高齢化が進んだことについての記述〈2点〉
	問2 (2)	ウ	3	㉗	46.8	

4

問題番号	正答	配点	通し番号	正答率(%)	採点基準
問1	(1)：イ (2)：生徒A：ア 生徒B：エ	3	㉘	68.2	
		3	㉙	85.8	完全解答
問2	①：自由 ②：ア ③：イ	4	㉚	35.8	①，②両方正解の場合に限り，中間点2点とする。 漢字指定
問3	（正答例1　先進国の立場） 発展途上国はCO_2排出量が増加しているので，京都議定書のように先進国にだけ排出削減義務を課すのではなく，発展途上国にも削減義務を課すべきである。 （正答例2　発展途上国の立場） 先進国はこれまでCO_2を多く排出してきたので，京都議定書のように先進国にだけ排出削減義務を課し，先進国は排出削減し続けるべきである。	5	㉛	14.7	①グラフについての記述〈2点〉 ②京都議定書の内容をふまえ相手はどうすべきかについての記述〈3点〉
問4	ア　オ	3	㉜	83.3	完全解答　順不同
問5	512　人以上	4	㉝	44.2	

（注）1　採点基準に「漢字指定」とあるところ以外は，漢字の部分がかなで書かれていても正答とする。
2　①の問3(2)，②の問3，問4，問6，③の A 2，B 2(1)，④の問2，問3以外は，中間点を認めない。
3　その他正答表に示された事項以外のものについては，学校の判断による。

(2) 領域別正答率

指　導　領　域		問題番号 1	問題番号 2	問題番号 3	問題番号 4	平均正答率	
地理的分野		問１、問４(1)(注1) 問４(2)、(3)	－	A 問１、問２、問３ B 問１、問２	－	５７．５％	
歴史的分野	古代まで、中世、近世	問２、問４(1)(注1)	問１、問２、問３(注1)	－	－	39.4％	41.2％
	近代、現代	問５	問３(注1)、問４、問５、問６	－	－	38.8％	
公民的分野		問３、問６、問７	－	－	問１、問２、問３、問４、問５	５８．３％	
全　　体						５１．９％	

（注１）　問題によっては、指導領域が重複している場合がある。

(3) 義務教育段階における学習の課題

義務教育段階における学力調査等から、北海道の中学生には文章と図表を結び付けて必要な情報を見付けることや、社会的な見方・考え方を働かせながら諸資料から情報を読み取ることに課題がみられる。

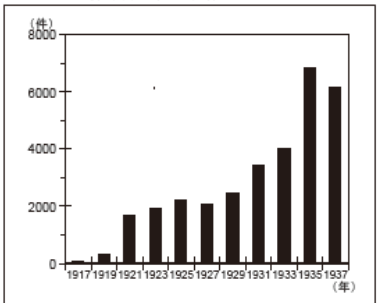
○　傾向や課題を踏まえた特徴的な問題　【大問２　問６】

正答率　5.3%

2

問６　下線部⑥が当時おかれた経済状況をふまえて，グラフに示した小作争議の発生件数が1920年代に急激に増えた理由と，1930年代に急激に増えた理由を，資料５～７を使い，説明しなさい。

グラフ　小作争議の発生件数



（「農林省統計表」などより作成）

資料５　明治時代に刊行された著書

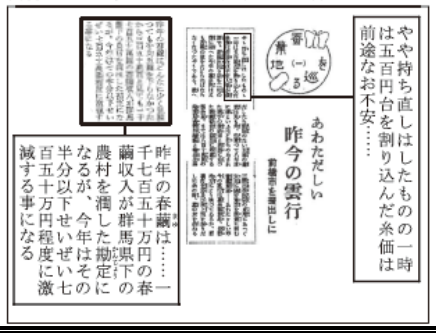
田地一段につき二石一斗（17円85銭）を得ているのは貧しい小作農でもよい方であるが，それでも，肥料や労働力をできるだけ節約し，小作米九斗（７円65銭）と諸費用を除けば，手元に残るのはわずかに20銭である。これでは利益を得ないで労作しているようなものである。

（「日本之下層社会」を現代語訳し，一部要約したもの）

資料６　略年表

西暦(年)	できごと
1920	労働争議が活発になる 女性の参政権を求める運動が始まる
1922	全国水平社が設立される 日本農民組合が設立される
1929	世界恐慌が始まる

資料７　1934年５月６日の新聞記事の一部



１　出題のねらい

［問題の内容］

この問題は、1920年代と1930年代のそれぞれについて、小作争議が増加した理由を、複数の資料から情報を読み取って説明する力をみる問題である。

［解答までのプロセス］

①　資料５から小作料が高いことなどによって小作農の生活が困窮していたこと、資料６から1920年代に社会運動が活性化したこと、資料７から1930年代に昭和（世界）恐慌の影響を受けて生活の困窮が深刻化したことを、それぞれ読み取る。

②　①の内容を整理し、それぞれを抽象化して説明する。

［関連する学習指導要領の領域と内容］

C　近現代の日本と世界

(1) 近代の日本と世界　イ(ｱ)

工業化の進展と政治や社会の変化、戦争に向かう時期の社会や生活の変化に着目して、近代の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し、表現すること。

２　解答の状況と分析

この問題の正答率は5.3%であった（中間点は正答率に含めない）。複数の初見資料を読み取った上で、読み取った情報（略年表中の「できごと」）を抽象化させて、「社会運動の活性化」と表現することが難しかったと考えられる。

(4) 中学校における今後の授業の在り方

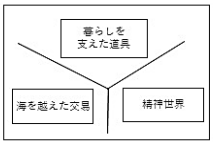
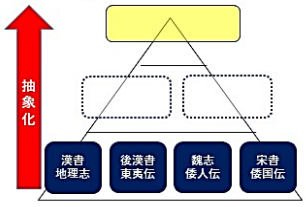
○　授業実践例

歴史的分野　【中学校　第１学年　社会】

「古代における時代の転換点を探ろう」
～時代の特色を、転換点を探る活動を通して大観する～

指導事項　**イ(ｲ) 古代の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し、表現すること。（思考力、判断力、表現力等）**
大項目Ｂ中項目(1) 古代までの日本：小単元２「日本列島における国家形成」

言語活動　・史資料から様々な情報を効果的に調べまとめたことを説明したり、それらを基に議論したりする活動

学習過程		〔主な学習活動〕	〔指導上の留意点〕
第一次	課題把握	**【中項目全体を貫く問い】** **「古代までの日本において、どのような出来事が歴史の流れを変えているのだろうか」** **【小単元２の学習課題】** **「日本は国家形成の過程で東アジアからどのような影響を受けたのか」**	
	課題追究	①　「１万年前の北海道で人々はどのような暮らしをしていたのだろうか」について、【暮らしを支えた道具】【海を越えた交易】【精神世界～祈りとこころ】のテーマから１つを選び、発掘された遺物を基にレポートを作成し、説明する。 ②　「本格的な稲作の広まりは、人々の暮らしや社会をどのように変えたのだろうか」について、環濠集落の復元図、首のない遺骨、大型建物の遺構といった史資料を基に考察し、ワークシートに記入する。 ③　「巨大古墳の出現や、その分布から分かることは何か。また、倭の王は、中国に何を求めたのだろうか」について、古墳の分布の特徴から当時の日本の状況を考察し、ワークシートに記入する。 【漢書地理志】【後漢書東夷伝】【魏志倭人伝】【宋書倭国伝】の史料から１つを選び、解釈したことを説明した上で、グループでそれぞれの説明内容を抽象化し、当時の日本と中国との関係を表現する。 ④　「大陸から移住してきた人々は、日本にとって、どのような役割を果たしたといえるのだろうか」について、須恵器や鉄器の製造技術、漢字、仏教や儒教をもたらし、６世紀後半には十七条憲法が作られ、豪族による寺院建築が盛んになったという事実を踏まえ、考察し、ワークシートに記入する。	■（①について）北海道・北東北の縄文遺跡群を中心に、遺跡の発掘の成果や具体的な遺物の発見による考古学の成果を活用する。 それぞれのテーマの考察を共有する学習活動が①で設定した問いのまとめにつながるようにする。 レポート  【縄文世界遺産推進室トップページ】 https://www.pref.hokkaido.lg.jp/ks/bns/jomon/ ■（②について）稲作の広まりが与えた社会等の変化は、食糧の安定受給を要因としていることを史資料から読み取ることができるよう、ワークシートを工夫する。 ■（③について）グループワークでは、それぞれの史料に書かれている個別の情報を、思考ツールで可視化しながら抽象化させる。  ■（④について）当時の東アジアにおける国際関係や国際交流についての理解を通して、日本と諸外国の歴史や文化が相互に深く関わっていることを考察させ、教科の目標である「他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深めること」や、歴史的分野の目標の(3)の「国際協調の精神を養う」ことの実現を図る。
第二次	課題解決	⑤　小単元２の学習課題「日本は国家形成の過程で東アジアからどのような影響を受けたのか」のまとめを、①～④の考察を踏まえ論述する。論述したことを基にグループで議論し、他者の意見を踏まえて、まとめを修正する。	■【知識：評定に用いる評価】評価規準Ｂの例 「東アジアの文明の影響を受けながら国家が形成されていったことが理解できており、正しい根拠を基に説明できている」
第三次	新たな課題	⑥　中項目全体を貫く問い「古代までの日本において、どのような出来事が歴史の流れを変えているのだろうか」について、部分的なまとめを複数の根拠を用いて論述する。また、論述したことを基にグループで議論し、他者の意見を踏まえて、根拠やまとめを修正したり、新たな問いを見出したりする。	■【主体的に学習に取り組む態度：学習改善につなげる評価】 「中項目全体を貫く問いの部分的なまとめの論述」 政治の展開、産業の発達、社会の様子、文化の特色などの視点を生徒に与えて考察させ、自己調整させる場面を設定する。

○　授業づくりのポイント

この単元では、教科書等で扱われていない初見の史資料を中心に分析、解釈、抽象化したことを根拠として示し、説明したり、議論したりする活動を行った。このように、諸資料から歴史に関わる事象についての様々な情報を効果的に収集し、読み取り、まとめる技能や、時代の特色を多面的・多角的に考察し、表現する力を育成する学習活動の一層の充実が求められる。

(5) 高等学校における指導の在り方

①「技能」について

中学校学習指導要領（歴史的領域）	高等学校学習指導要領（「歴史総合」）
諸資料から歴史に関する様々な情報を効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。	諸資料から歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付ける。

・中学校で技能を身に付けるために行われてきた学習活動を高等学校においても継続しつつ、幅広い資料の中から必要な資料を「選択して有効に」活用させることをより重視した指導が求められる。
・中学校段階で生徒が身に付けた技能を繰り返し活用して習熟を図るような指導が求められる。

②「表現力」について

中学校学習指導要領（歴史的領域）	高等学校学習指導要領（「歴史総合」）
思考・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。	考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。

・振り返りの場面などにおいて、生徒が表現する場面を単元の中に計画的、効果的に設定し、表現力を育成する指導が求められる。
・自分の考えを論理的に説明する力、他者の主張を踏まえたり取り入れたりして自分の考えを再構成しながら議論する力などを身に付けさせる指導を、高等学校においても継続しつつ、「資料等を適切に用いて」根拠を基に説明したり論述したりする力を身に付けさせることを、より重視した指導が求められる。

4　理科

(1) 正答表

1

問題番号		正答	配点	通し番号	正答率(%)	採点基準
問1	(1)	① 屈折	2	①	90.6	
	(2)	② 光沢	2	②	94.2	
	(3)	③ 染色体	2	③	79.1	
	(4)	④ 黒点	2	④	92.0	
	(5)	⑤ 音源	2	⑤	63.3	
	(6)	⑥ 沸点	2	⑥	55.6	
	(7)	⑦ 分離	2	⑦	59.1	
	(8)	⑧ 惑星	2	⑧	73.2	
問2		42 (cm/s)	3	⑨	62.4	
問3		① 電子　② イ	3	⑩	54.0	完全解答
問4		記号 B　名称 がく	3	⑪	63.7	完全解答
問5		F	3	⑫	71.9	

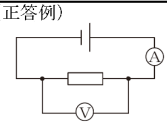
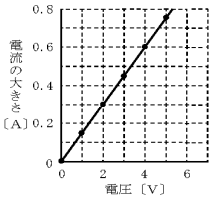
2

問題番号		正答	配点	通し番号	正答率(%)	採点基準
問1	(1)	① ア　② ア	3	⑬	70.6	完全解答
	(2)	イ	3	⑭	67.0	
問2	(1)	(正答例) 水が蒸発するのを防ぐ	3	⑮	73.9	蒸発を防ぐことが書かれていればよい。
	(2)	① ウ　② 3.8	4	⑯	28.3	①のみ正解の場合は中間点2点とする。
問2	(3)	グラフ　イ 理由　(正答例) 明るいところでは気孔が開くから。	5	⑰	29.2	1　グラフのみ正解の場合は中間点2点とする。 2　理由は明るさと気孔の状態の関係が適切に書かれていればよい。

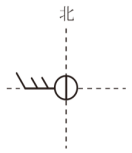
3

問題番号		正答	配点	通し番号	正答率(%)	採点基準
問1	(1)	① 水素　② イ	3	⑱	64.5	①のみ正解の場合は中間点1点とする。
	(2)	① イ ② (正答例) 水に溶けやすい	4	⑲	51.6	完全解答
問2	(1)	Cu	3	⑳	70.9	
	(2)	エ	3	㉑	56.8	
問3	①	(正答例) 塩素に漂白作用がある	5	㉒	20.6	1　①の「漂白」は「脱色」でもよい。 2　①が正解の場合は中間点2点とする。 3　②が正解の場合は中間点1点とする。 4　③は「銅イオン」でもよい。 5　③は①と②の両方が正解の場合のみ正答とする。
	②	ア				
	③	(正答例) 塩化銅水溶液				

4

問題番号		正答	配点	通し番号	正答率(%)	採点基準
問1	(1)	(正答例) 	3	㉓	49.9	電源と抵抗の両方が適切な位置に，電源は適切な向きに，それぞれ接続されていること。
	(2)	2 (倍)	3	㉔	83.5	
問2	(1)	(正答例) 	3	㉕	23.6	1　横軸と縦軸の数値が1つ以上書かれていること。 2　原点を通る直線であること。 3　グラフの両端がグラフ用紙の端まで延長されていること。 4　グラフの「・」はなくてもよい。
	(2)	明るい ⟶ 暗い エ → ア → イ → ウ	4	㉖	16.6	
問3	①	0.5	5	㉗	11.1	1　①のみ正解の場合は中間点3点とする。 2　②は抵抗器を流れる電流がなくなったことが書かれていればよい。
	②	(正答例) 抵抗器を流れる電流がほとんどなくなった				

5

問題番号		正答	配点	通し番号	正答率(%)	採点基準
問1	(1)	① 等圧線　② ア	3	㉘	58.9	完全解答
	(2)	(正答例) 小さく密度が大きくなる	3	㉙	44.2	空気が縮んで密度が大きくなることが書かれていればよい。
問2	(1)		3	㉚	50.9	矢羽根の角度や長さが適切にかかれていればよい。
	(2)	(正答例1) 西高東低の気圧配置により，湿った空気が山脈で雪を降らせ，乾燥して太平洋側にふき下りるため。 (正答例2) 北西の季節風が，山脈で雪を降らせて，太平洋側に流れるため。	4	㉛	20.6	西高東低または冬型の気圧配置により，山脈で雪が降ることのみ書かれている場合は中間点2点とする。
	(3)	① 2.7 ② 1.2 ③ 44.1	5	㉜	14.7	1　①のみ正解の場合は中間点2点とする。 2　①と②の両方が正解の場合は中間点3点とする。

(注) 1　②の問2の(2)，(3)，③の問1の(1)，問3，④の問3，⑤の問2の(2)，(3)以外は，中間点を認めない。
2　その他正答表に示された事項以外のものについては，学校の判断による。

(2) 領域別正答率

指　導　領　域	問　題　番　号					平均正答率
	1	2	3	4	5	
エネルギー(物理的領域)	問１(1)、(5)、問２	－	－	問１、問２、問３	－	５０．１％
粒　　子　(化学的領域)	問１(2)、(6)、問３	－	問１、問２、問３	－	－	５８．５％
生　　命　(生物的領域)	問１(3)、(7)、問４	問１、問２	－	－	－	５８．９％
地　　球　(地学的領域)	問１(4)、(8)、問５	－	－	－	問１、問２	５３．３％
全　　体						５５．２％

(3) 義務教育段階における学習の課題

義務教育段階における学力調査等から、北海道の中学生には、検証計画の立案、結果の処理、考察・推論などの探究の過程において、科学的な知識・技能を活用することについて課題が見られる。

○ 傾向や課題を踏まえた特徴的な問題　【大問４　問２(1)】

正答率　23.6%

4

問２　実験２について，次の(1)，(2)に答えなさい。

(1)　図３の回路について，電圧計の示す電圧と電流計の示す電流の大きさとの関係をグラフにかきなさい。その際，横軸，縦軸には目盛りの間隔（１目盛りの大きさ）がわかるように目盛りの数値を書き入れ，グラフの線は解答欄のグラフ用紙の端から端まで引くこと。

図２

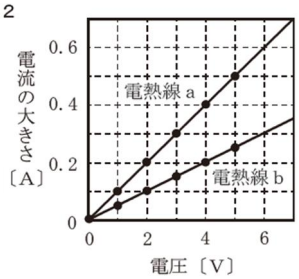
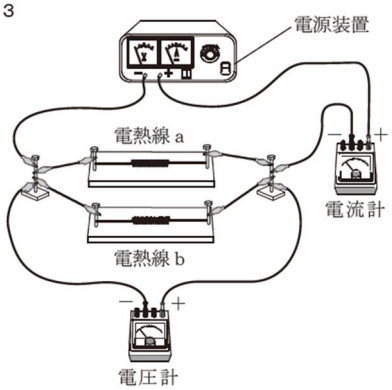


図３



１　出題のねらい

［問題の内容］

この問題は、並列つなぎにおける回路全体の電流と電圧に関する規則性について理解したことをもとに、グラフを作成する力をみる問題である。

［解答までのプロセス］

①　図３の回路が並列つなぎであることを判断する。

②　「抵抗を並列につないだ回路について、分岐点のある回路では流入する電流の和と流出する電流の和が等しく、それぞれの抵抗の両端の電圧は等しい」という知識と「金属線に加える電圧と流れる電流の大きさを調べた測定値をグラフ化する」という技能を用いて、図２の各電圧において電熱線ａ、ｂを流れる電流の和となるグラフを解答用紙にかく。（または、図２から、「オームの法則」と「並列つなぎの合成抵抗」の知識を活用して、電熱線ａ、ｂの抵抗の値から並列つなぎの合成抵抗を求め、回路全体の電流と電圧のグラフを解答用紙にかいてもよい。）

［関連する学習指導要領の領域と内容］

第２学年　第１分野

(3)　電流とその利用

電流とその利用についての観察、実験などを通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

イ　電流、磁界に関する現象について、見通しをもって解決する方法を立案して観察、実験などを行い、その結果を分析して解釈し、電流と電圧、電流の働き、静電気、電流と磁界の規則性や関係性を見いだして表現すること。

２　解答の状況と分析

この問題の正答率は 23.6%であった。金属線に加える電圧と流れる電流の大きさを調べ、測定値をグラフ化する技能について、平成 25 年の大問５問１(2)で出題し、正答率は 45.3%であった。この技能に加えて、この問題では抵抗を並列につないだ回路についての知識も問われたことから、さらに正答率が下がったと考えられる。したがって、複数の知識・技能を関連付け、規則性や関係性を見いだして表現することが難しかったと考えられる。

(4) 中学校における今後の授業の在り方

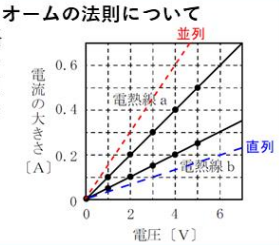
○　授業実践例

(ｱ) 電流　**【中学校　第２学年　理科】**

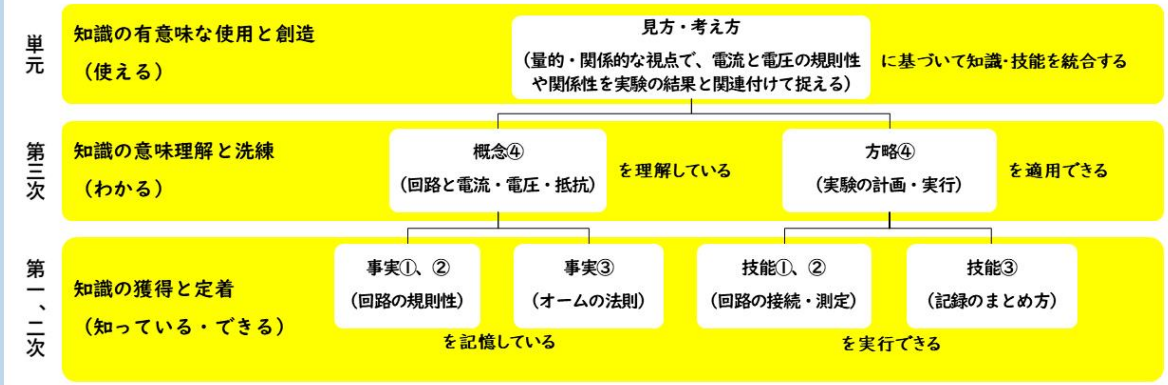
「電圧と電流の関係性を表すグラフから、
合成抵抗とそれぞれの抵抗との間にある規則性を見付けよう」

指導事項　**⑶イ　電流に関する現象について、見通しをもって解決する方法を立案して観察、実験などを行い、その結果を分析して解釈し、電流と電圧、電流の働きの規則性や関係性を見いだして表現すること。【思考力・判断力・表現力等】**

探究的な活動　理科の見方・考え方を働かせ、観察、実験の結果を分析して解釈するなどの科学的に探究する学習活動

学習過程	〔主な学習活動〕	〔指導上の留意点〕
第一次（回路の規則性）	**直列回路と並列回路における規則性について** ①　直列回路と並列回路の各点を流れる電流値を測定して、その関係性を見いだす。 ②　直列回路と並列回路の各区間の電圧を測定して、その関係性について考える。	■　直列回路と並列回路の各点を流れる電流値または各区間の電圧値の関係性を見いだせていない場合は、測定値のふり返りをさせ、どのような関係性を見いだせるか、再度考察させる。**【検証計画の立案】** ■　回路の作成の仕方、電流計及び電圧計の使い方の理解が不十分な場合は、基礎操作の内容をふり返らせる。**【観察・実験の実施】**
第二次（オームの法則）	**一つの抵抗におけるオームの法則について** ③　電圧と電流の関係を調べる実験を見通しをもって行い、その結果を記録して、関係性を見いだして表現する。	■　第１学年での「ばねに加える力の大きさとばねののびとの関係」の学習などと関連を図りながら、誤差の扱いやグラフ化など、測定値の処理の仕方を習得させる。**【結果の処理】**
第三次（回路と電流・電圧・抵抗）	**合成抵抗におけるオームの法則について** ④　抵抗の直列回路と並列回路において、抵抗値の規則性や関係性を見いだす。  	■　二つの抵抗を直列や並列につないだ場合について、回路全体の電流と電圧を測定したグラフを、第一次と第二次で学習した知識・技能を活用し、それぞれの抵抗の電流と電圧を測定したグラフと関係付けて、指導を行う。**【考察・推論】**

単元における主な学習活動（①～④）の構造化※



○　授業づくりのポイント

この単元では、金属線に加わる電圧と電流を測定する実験を行い、電圧と電流の関係や、金属線には電気抵抗があることを理解する活動を通して、規則性や関係性を見いだして表現する力を身に付けさせることができる学習活動を行った。

特に、第三次の場面では、二つの抵抗を直列や並列につないだ場合について、合成抵抗とそれぞれの抵抗との関係式を知識として理解させるだけでなく、第一次と第二次で学習した知識・技能を活用し、回路全体の電流と電圧を測定したグラフをそれぞれの抵抗の電流と電圧を測定したグラフと関連付けて、どのような規則性や関係性があるかを見いだして理解させることが大切である。

(5) 高等学校における指導の在り方

高等学校では、電気抵抗に関する実験などを行い、同じ物質から成る導体でも長さや断面積によって電気抵抗が異なることを理解する活動を通して、規則性、関係性、特徴などを見いだして表現する力を育成する学習活動の一層の充実が求められる。その際、「抵抗の直列つなぎは金属線が長くなることと同じであること」、「抵抗の並列つなぎは金属線が太くなることと同じであること」のように、中学校における抵抗の直列つなぎや並列つなぎの学習内容を、高等学校における導体の長さや断面積の学習内容と関連付けて指導することが考えられる。

※中央教育審議会 教育課程特別部会 教育課程企画特別部会（第 13 回 平成 27 年８月５日）配布資料「学習指導要領等の構造化のイメージ」（文部科学省）（https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo3/053/siryo/__icsFiles/afieldfile/2015/08/06/1360750_2-1_3.pdf）を加工して作成